



梨花

題字/ 故西尾邑次
元名誉会員揮毫

第70号

2023年1月27日発行
東京鳥取県人会事務局
〒102-0093
東京都千代田区平河町2-6-3
都道府県会館10F
電話 03(5212)9178
FAX 03(5212)9079
発行責任者/福井宏一郎
編集/県人会広報部会
<https://www.pref.tottori.lg.jp/tokyokenjin/>

「令和4年総会と懇親の集い」は、「コロナ禍により3年ぶりの開催となりました。当日は生憎の冷たい雨模様でしたが、なんのこれしきと大勢の会員そしてご来賓の方々にご出席いただき、久しぶりの開催を楽しんでいただきました。」

令和4年東京鳥取県人会総会と懇親の集いは、去る11月23日（勤労感謝の日）午前11時30分より都市センターホテル（東京千代田区平河町）で200余名の参加を得て盛大に開催されました。



福井会長

勝部日出男総務部会長の司会で総会が開会し、先ずは福井宏一郎会長の開会のご挨拶、「今年は是非とも開催したかった」との決意のもと総務部会の皆さまと事務局（県東京本部）と一丸で準備をしてきた旨を披露され、故郷からご出席いただきました平井伸治知事をはじめ、市町村長、来賓の皆さまに感謝を述べられました。そして、県人会事務局 鳥飼敏博（県東京本部主幹）さんから会務報告があり、会務処理など満場の拍手で承認され、総会は簡潔に終了しました。



立川志の八師匠

司会者は金田実子さんに代わり、舞台ではステージショーが始まり、いわみふるさと大使でもある立川志の八師匠が登場し、岩美町をネタにした「まくら」に続き落語「ちりとてちん」を楽しみました。師匠のちよんまげ姿は良く似合っていました。地毛だそです。



副会長紹介

「懇親の集い」が始まり、先ずは福井会長による新役員紹介（勝部日出男総務部会長、長尾克己広報部会長、市川祐一郎交流部会長）があり、吉



吉田名誉会長

田政雄名誉会長（前会長）から会長就任翌年の賀詞交歓会は開催出来たが、当時コロナ感染症の性質が分からず総会・懇親の集いは出来なかった。この度の開催に嬉しく思うと挨拶されました。



平井知事

来賓紹介、来賓祝辞に移り平井伸治知事から役員への労い、米寿会員への祝辞、いつもの軽快なトーク、松葉力二のシーズンでもあることから「鳥取県は力二をとつとります！」とのダジャレも冴えた祝辞でした。



石破衆議院議員

石破 茂衆議院議員からは、「政治の話はしませんよ」で始まり、東部、中部、西部の語りの特徴とか、鳥取県の世帯可処分所得は全国上位とか披露された祝辞でした。



内田県議会議長

内田博長 鳥取県議会議長による乾杯の音頭。コロナ感染防止対策で食事は弁当、ビール、お酒は自分で注いで下さいとリスクを軽減しての食事タイムです。



みよーちゃん

舞台では松竹芸能所属のお笑い芸人のみよーちゃんが軽いタッチで自書「鳥取あるある」をネタにあらためて鳥取を紹介したりしました。



石村さん、景山さん

福引も最後、とつとりコンベンションビュローの石村隆男さん提供の本日の目玉賞品松葉力二!!これは米寿の景山正（境港出身）さんが当たりました。



賞品の贈呈

食事が終わりあちこちで名刺交換、再会を喜ぶ輪が出来き、しばらく歓談が続きました。その内に、恒例の福引が始まり、当選者は次々と壇上に上がり賞品を受け取り笑顔で嬉しそうです。

例年、全員が登壇して「ふるさと」を合唱してお開きになるのですが、今回は写真撮影のみとなりました。後ろ髪を引かれる思いで、三々五々家路に付きました。2次会に向かった興奮冷めやらぬグループもありました。



東京鳥取県人会
令和4年 総会と懇親の集い



株式会社 不二家
代表取締役会長 山田 憲典
〒112-0012 東京都文京区大塚 2-15-6
TEL: 03-5978-8100

大江/郷自然牧場
0570-077-505

有限会社 田中農場
〒680-0426 鳥取県八頭郡八頭町下坂 442
TEL 0858-72-2826

TOTTORI BANK 鳥取銀行
東京事務所
所長 門脇 崇
〒101-0048 東京都千代田区神田司町 2-2-12
神田司町ビル 5 階
TEL 03-5295-8111 FAX 03-5295-8117
<http://www.tottoribank.co.jp/>

新会長のご挨拶

会長 福井宏一郎

吉田政雄前会長の後任としてご指名を受けました新会長の福井宏一郎です。長引くコロナ禍がなかなかすっきりと終わりになりません。ウイズコロナの中でも会員の皆様との楽しい企画を充実させて参りますので、宜しくお願ひします。



昨年11月23日には、3年振りの総会・懇親会が開催され、久しぶりに会員の皆様にお会いできました。また平井知事、国会議員の方々を始め、郷里から各界の参加を頂き、市町村長を囲むテーブルでは、それぞれ古里との交流を身近に感じる事ができました。年明けには新年賀詞交歓会、国立劇場歌舞伎鑑賞会と続き、その後新たな企画を予定致します。

東京鳥取県人会は明治36年に設立され、今年で120年目を迎えています。この間、本会は会員の皆様の親睦を図るとともに、郷里鳥取県に何か貢献できる事はないかと語り合ってきました。日本や世界は今大きな変革期を迎えています。この会の変わらぬ二つの目的を時代に沿った形で発展させたいと思っております。県や市町村との交流も、一層活発化したいものです。

地方創生ばなし《その19》

「東大淀江プロジェクト」

淀江ロマン 遺跡回廊推進会議共同代表 勝部日出男

水と緑と遺跡の町淀江が寂れゆくのを見過ごせず、有志により古代淀江ロマン遺跡回廊推進会議を設立し、一昨年の3月には東大大学院人文・淀江研究プロジェクトが決まり、7月には、記念シンポジウム「淀江の石馬と継体天皇」が成功裏に開催されました。

東大人文・淀江プロジェクトに加えて、昨年の3月より東大工学系大学院徳永朋祥教授「地下水学の東大第一人者」に、淀江の地下水資源について

て研究委託をいたしました。5月と7月に3名の研究者とともに淀江に訪れ、湧水源地の探索、地質・地質検分、採水等をされ、調査報告書が出来ます。豊富な湧水に大変驚かれ、水資源もまちづくりの生かせればとの思いです。徳永教授は、県の産廃施設計画に伴う調査報告も読み込まれ、調査方法なども検討されました。多額の税金を投入した調査の方法・内容等や地質ボーリング装置も残せば、淀江は全国の研究者・学生の地下水研究・学習の為の著名拠点になると提起されています。

淀江に産廃施設が建設されるとすれば、逆にこの機会に施設に付随して、産廃廃棄物・



「総会・懇親の集い」スナップ集

歓談中のところにお邪魔し、写真とりますとお集まりいただきました。紙幅の都合上その一部しか載せられなかったことお詫びいたします。



左から、武田太老さん、幾田充代さん、中瀬誠さん、岩美町議会議長 足立義明さん、武田博史さん、島村諭さん



左から、山中昌之さん、梅原俊治さん、亀尾秀司さん、(前)神庭浩志さん、(後)手島淳行さん、南部町長 陶山清孝さん、東海鳥取県人会会長 可世木博さん



左から、小林淳さん、倉吉市長 広田一恭さん、上野茂美さん、大田悦子さん、徳田収さん



左から、(後)近藤貴史さん、田中善朗さん、越谷英作さん、森本和夫さん、(前)越谷重友さん、尾崎幹子さん



左から、原田雅夫さん、越生明彦さん、日吉津村長 中田達彦さん、井田年厚さん



左から、瀨永美津江さん(志の八さんのお母さん)、志の八師匠、奥田真三さん、清水裕実さん、西原真美さん



左から、みよーちゃん、小澤法子さん、小澤彩菜さん、青砥基さん、渡邊省蔵さん、岩田有紀子さん



左から、(後)下村明子さん、福井史枝さん、吉田治子さん、(前)足立幾子さん、勝部陽子さん、平石裕子さん



左から、上田芳男さん、上田千代子さん、山田憲典さん、山田雅行さん



左から、藤井田多恵子さん、友定義晴さん、志の八師匠、みよーちゃん、大田慶子さん、倉吉商工会議所副会頭 大田英二さん、畑中静子さん、倉吉商工会議所副会頭 藤井武親さん



左から、山陰合同銀行 日熊徹さん、手島淳行さん、下村節宏さん、衆議院議員 湯原俊二さん、鳥取銀行 門脇崇さん



左から、水沢聡一郎さん、山根一朗さん、佐々木宏さん、岡空晴夫さん、足立盛二郎さん

協同組合情報サービス

代表理事 永井 幹 (米子市出身)

組合本部 東京都新宿区西新宿3-9-23 電話 03(3376)4783
米子事務所 鳥取県米子市西福原5-1-7 電話 0859(30)2791



株式会社 不二家システムセンター

株式会社 不二家システムセンター

代表取締役社長 砂川 満

〒134-0088 東京都江戸川区西葛西3-22-21
西葛西 KYU ビル 4階 TEL: 03-5675-5511



株式会社 中野 英二

取締役会長 大田 英二
〒103-0015 東京都中央区日本橋箱崎町20-7
ITO ビル 6F
TEL 03-5640-8122
FAX 03-5640-8100

梨花70号発行にあたり「梨花」70号記念特集

「県人会」と「梨花」への思い

あれこれ



幹事・前「梨花」編集人 遠藤隆司

「梨花」に関わる経緯はどんなものだったのか、東京生まれ、東京育ちの私がなぜ鳥取県人会なのか。その疑問を晴らしてくれたのは平成15年、日本海新聞の連載「とっとり人」で私が「梨花」の編集人をやるといふことと、荒木隆宏記者（現鳥取本社総務局長）が東京生まれの私をあえて取材してくれたことである。「誰よりも鳥取大好き人間のエンちゃん」ととり人と県人会が認知してくれた。父方が鳥取市湖山（こやま）で、母方は鳥取市湖山（こやま）である。戦時中、私は兄と共に親元を離れて縁故疎開をしていった。湖山小学校と千代水小学校（現城北小学校）の二つに通った。育ててくれた叔父、叔母たちへの恩は片時も忘れない。

そんな私が、父の代理で幹事に出席したことがあって、いつの間にか幹事の末席に連なっていたというのが本当のことである。当時の所長が村山直氏（消息不明）で会長が当時三井信託銀行会長の土井正三郎氏（10代会長。故人）であった。

今、福井宏一郎氏が24代会長とすると、私は15人の会長に巡り合ってきたことになる。歴代所長、本部長もまた然り、「梨花」担当者は枚挙にいとまがない。

「梨花」には他にも大きな節目があった。復刊50号の時、別冊で「東京鳥取県人会110周年史」を発刊させた。本冊子の中で特に本池滋夫氏（現評議員）と東京鳥取県人会史を書き分けたことが心に残る。これまで「梨花」で連載してきた49編の「随想リレー」をも同時にまとめた。50号記念でなぜ49編？ 実は、28号だけ随想リレーが欠けたのである。これぞ編集人の大失態。今だから打ち明けるが、私がかけた人は誰もいなかった。

「梨花」70号発行にあたり「梨花」70号記念特集



（令和4年10月30日記）

遠藤編集長 お疲れ様でした

本池 滋夫

御無沙汰しています。70号記念号の発行おめでとうございます。年二回の発行で70号ということば、かれこれ二十数年に及ぶわけですからすごいですね。企画、原稿執筆、編集から広告集めまで、この間ほとんど一人でやって来られた遠藤編集長は本当に御苦労様でした。

故沢田廉三会長時代に誕生した新生「梨花」が10号（昭和41年から47年）しか続かなかつたのに比べると、まさに隔世の感があります。「東京鳥取県人会110周年史」の連載など、私も少し御手伝いさせて頂きました。いつも安っぽい正義感を振りかざす若輩者に対し、遠藤編集長は優しく諭してくれました。生意気にも時に電話口で怒鳴り声を上げたこともありました。申し訳ありません。



東京鳥取県人会と「梨花」の思い出

石久保祐子（鳥取市出身）

鳥取県を退職して、早いもので二年半が経ちました。平成25年春、東京本部に赴任し、東京鳥取県人会の事務局を通算5年間務めさせて頂きました。担当初年と最後の令和元年の



でした。今は遠い昔の懐かしい思い出、というところで御容赦下さい。ところで、小生は二年ほど前に住み慣れた東京を離れて京都・大原という所に移り住みました。近くの三宅八幡に住む息子たちが老夫婦に不測の事態があった際すぐ駆けつけられる所に引越して欲しい、というところまで思い切つて移住しました。比叡山、鞍馬山などに囲まれた鯖街道沿いの里山の一角で、近くに三千院、寂光院などがあり、散歩コースには事欠きません。バス、地下鉄、阪急電車などを乗り継いで週二、三回傷んだヒザのリハビリなどに出かけ、その都度、杖を突きながら古都探訪も楽しんでいきます。

「梨花」70号 発刊に寄せて

五百川 孟（鳥取市在住・力蔵）

70号の発刊おめでとうございませう。平成9年4月、JR有楽町駅前の旧都庁舎に仮住まいしていた鳥取県東京事務所の次長として着任し、平成12年3月鳥取に帰任するまでの3年間、上村伴明所長、大西重任総務課長等と共に、県人会事務局の業務を担当してまいりました。（注・翌年には前田親保所長に、東京事務所は平河町に移転）

当時、県人会では会報紙の発行が永年の懸案で、常任幹事の方々と勤務時間外に事務所の会議室や有楽町駅近くの喫茶店「フランチ」等で、復刊に向けた協議を重ねました。会報紙の名前は、26年前元国連大使だった澤田廉三氏が主宰して10号まで発刊された同名の「梨花」を踏襲し、当時の西尾昌次知事に揮毫して頂きました。



紙面は、総会や親睦事業で開催された囲碁、ゴルフ、麻雀大会の結果等をはじめ、会員の企業や県人のお店の紹介、また故郷鳥取の珍しいニュース等幅広く、取材は以前「主婦と生活」行には直接的には携わっていませんでしたが、県人会の行事にご参加が難しい方も少なからずいらっしゃる中で、この会報誌発行は漏れなく「全会員」の方にお届けできる、とても重要な活動であることを常に心に置いておりました。これは、現顧問の足立盛二郎元会長が、広報部会長をされていた頃から、この全会員を繋ぐ「梨花」をとても大切にされ、繰り返し仰つたことでした。

事務局をさせて頂いて印象的だったのは、会員の皆様、そして歴代会長をはじめ役員の皆様が、にお勤めされ、編集等のプロでもあった幹事の遠藤隆司様に手弁当でお引き受け頂きました。今日では、毎号その時々々の県人等が数多く発信され、素晴らしい内容の会報紙となっています。遠藤様には、復刊から25年の永きに亘り会員に親しまれる紙面作りにご腐心され、取材等に随分ご苦労があったことと思います。毎日のように、朝のテレビや新聞では、ロシアのウクライナへの攻撃や国内のコロナ感染等の暗いニュースを伝えていますが、心が痛みます。

私事で恐縮ですが64歳で仕事を辞め、13年となります。少しばかりの田畑で自家用の米や野菜作りをしながら、趣味で始めた養蜂（50群）も楽しみながら元気に過ごしています。終わりに、これからも会員の皆様に愛され親しまれる会報として、未永く刊行されるよう祈っています。

県人会と故郷鳥取をとっても大切に思い、守っていらっしゃるお姿です。約120年前、「因伯郷友会」として立ち上がった当時の士気が今もなお受け継がれているように感じ、微力ながら一助となることを誇らしく、有難く思っていたことを思い出します。

新たに県人会員となり、これからも故郷鳥取に思いを寄せ、県人会や鳥取県を盛り上げる大河の一滴くらいにはなれますよう、精進して参りたいと思っております。

若かりし頃のアフリカの思い出

壇原 雅

今から48年前の1974年ケニアの首都ナイロビに滞在した。

イギリスから独立して11年目、初代ケニア大統領が統治しており、治安はまずまずという感じだった。

ナイロビは赤道直下の標高1,600mに位置、日差しは強烈だが年間を通して涼しくて快適。昼間は時に30度超えることもあるが、朝晩の気温は10度以下に下がり、赤道直下と

随想リレー

ケニアは山崎豊子さんの小説「沈まぬ太陽」の主人公が駐在したところでも有名。あの駐在員の方の家で彼が捉えたライオンの肉の焼肉パーティーがあった。興味深々でライオンの肉を食べたが美味しいとは言えず、ガムの様で噛みきれなかった。

ケニアはサファリツアーが有名。ビッグ5と呼ばれるのはライオン、ソウ、ヒョウ、サイ、水牛だが、何と云って

「冬は電気製品がすぐ高く掃除、洗濯等すべて人の手でやっていた。イギリス人の知恵でやはり病気を警戒してのことと思うが、下着はもちろ



も一番壮観だったのは又ウの大移動である。食料の草を求めタンザニアからケニアに、そしてケニアからタンザニアへと何10万頭もの又ウが大移動する様は、まさにアフリカならではの見ものだ。目の前で宝石強盗にも遭遇した。宝石屋の前を通りかけた時、中から強盗が出てきて威嚇のピストルを放つた。生れて初めて聞くピストルの音に足がすくんだ。その場を立ち去ろうとしたが、ピノキオのように足ががくがくして思うように歩けない。膝が抜けるとはこういうことを言うのだと思った。

読者の声

匿名さん

多士済々の郷土愛に触れる本紙を毎号楽しみにしています。広報委員さんの弛まぬ創意工夫のお陰で、希薄になりがちな会員同士が結ばれると同時に県人の誇りが覚醒され、ありがたい存在です。今後アプリアのような便利道具の活用により読者(会員)層や繋がりがもっと広がることを期待します。



- 1. 県人会の総務・総括的な役割に基づく活動
 - 2. 正副会長会、常任幹事会、幹事会の開催
 - 3. 年度予算及び決算の策定取りまとめ
 - 4. 予算執行に関するガイドライン等の取りまとめ
 - 5. 会員増強と財政基盤の確立のための企画・実施
 - 6. その他、他部会にかかわらない事項、総括的事項
 - 7. 責任担当イベント行事と令和5年の開催予定
 - 8. 新年賀詞交換会：1月20日(金) 12時より新橋ももてなし家で開催。
- 新春を寿ぎ賀詞交換し県出身者の親睦・交流を促進する
- 9. 新入会員歓迎会：9月頃新橋ももてなし家で開催。
 - 10. 新入会員を歓迎し交流を深める
 - 11. 県人会総会と懇親の集い：11月3日(祝日) 都市センターホールで開催
 - 12. 県人会最大の催しとして郷里自治体首長・関係者と首都圏の県出身者との交流・発展を図る華やかで楽しめる企画を実施する
 - 13. 会員の漸減傾向・高齢化が進む中、魅力ある県人会とするために広報、交流両部会と連携して方策を検討実施して、若い人、女性、鳥取県に所縁のある関係者を含め新入会員勧誘増強策を推進して参りたいので、各催し毎に知人友人への勧誘にご協力をお願い申し上げます。

岩美の木彫十二支

(岩井温泉 おべり屋)

創業約200年の老舗に伝わる木彫十二支は10代目小椋幸人氏に引き継がれ、山陰最古の温泉のお土産として親しまれております。

全て手づくりで温もりがあり、今年の干支と因幡の白うさぎに因んだ新春の慶びを感じさせる逸品です。



今年の干支 親子うさぎ

智頭の森林セラピー

森林率が90%を超える智頭町は四季折々の森林セラピーを推進しています。

「冬の森林セラピーはスノーシュー！澄んだ空気を胸いっぱい吸い込んでみましょう。」

(©智頭町)



※「私たち、東京鳥取県人会の会員は、地方創生の活動を、いつでも、心から応援しています。」

交流部会だより

第52回因伯オープン報告

京鳥取県人会懇親ゴルフ会が、11月7日(月) 神奈川の名門 湘南カントリークラブに於いて開催された。コロナ禍での開催も3年目を迎え、依然として収束とは言い難い状況ですが、コロナを正しく理解し、体力・免疫力の向上を目指しましょう」との合言葉のもと、22名のゴルフ愛好者が参加し、秋晴れの下プレーを楽しみました。

参加者全員最後まで無事完走し、プレー終了後のパーティー(表彰式)も実施することが出来ました。

優勝は吉川博さん(西部地区)、準優勝は市川祐一郎さん(中部地区)、第3位は本田顕彦さん(東部地区)となりました。

また、開催案内等連絡(メール案内)の関係から、県人会への登録とは別に、ゴルフ会名簿への

総務部会だより

総務部長 勝部日出男

総務部会での役割と活動内容は次の二つに分けることができます。

1. 県人会の総務・総括的な役割に基づく活動
2. 正副会長会、常任幹事会、幹事会の開催
3. 年度予算及び決算の策定取りまとめ
4. 予算執行に関するガイドライン等の取りまとめ
5. 会員増強と財政基盤の確立のための企画・実施
6. その他、他部会にかかわらない事項、総括的事項
7. 責任担当イベント行事と令和5年の開催予定
8. 新年賀詞交換会：1月20日(金) 12時より新橋ももてなし家で開催。

新春を寿ぎ賀詞交換し県出身者の親睦・交流を促進する

9. 新入会員歓迎会：9月頃新橋ももてなし家で開催。
10. 新入会員を歓迎し交流を深める
11. 県人会総会と懇親の集い：11月3日(祝日) 都市センターホールで開催
12. 県人会最大の催しとして郷里自治体首長・関係者と首都圏の県出身者との交流・発展を図る華やかで楽しめる企画を実施する
13. 会員の漸減傾向・高齢化が進む中、魅力ある県人会とするために広報、交流両部会と連携して方策を検討実施して、若い人、女性、鳥取県に所縁のある関係者を含め新入会員勧誘増強策を推進して参りたいので、各催し毎に知人友人への勧誘にご協力をお願い申し上げます。

【編集後記】



新広報部会にとつて初めての4ページなので、梨花69号発行後すぐに記事構成の検討に入りました。3年ぶりの総会・懇親の集い、そして70号特集と多くの写真、寄稿に恵まれました。この間、コロナ感染リスクを避けて県人会の活動も中止になったり、リモート会議になったりしましたが、段々とウイズコロナ社会に

なりました。以下、面白い活動の予告と報告が出来ればと楽しみにしています。会員からの近況便り(500字程度)、梨花の感想「読者の声」(200字以内)をお待ちしています。事務局宛て手紙、FAXでお寄せ下さい。 編集子

令和4年度 全国新酒鑑評会 金賞受賞
 千代むすび酒造(株)
 代表取締役 岡空 晴夫
 〒684-0004 鳥取県境港市大正町131
 TEL 0859-42-3191 FAX 0859-42-3515

東京鳥取県人会
 東京鳥取県人会は、関東近辺在住の鳥取県出身者などから組織される団体です。約700名の会員を擁し、年1回の総会のほか、各種交流会などを行っております。皆様の御入会をお待ちしております。 <https://www.pref.tottori.lg.jp/tokyokenjin/>